

# ふれあい・コンタクト

動物と出会い、人と触れ合っって心のときめきをコーディネートするために

円山動物園ボランティア会  
代表世話役 竹尾 昌己

## ニュースレター

### <『ボランティアの日』開催される>

9月12日動物園ボランティア会主催のイベント『ボランティアの日』が開催されました。当日はお天気にも恵まれ、又園内遊園地も9月末で閉園との事情も重なり、入園者は一万人以上にも達する勢いの日でした。恒例の園内四カ所を回るスタンプラリーは、約1,000組が参加、内約900組がゴールされ終日子供達の賑わいで溢れていました。クマチカ班、ワイルド班、ふれあい班は動物クイズを行い、各班が用意したカンパッチ、ぬりえ、動物カードのプレゼントに、どの子も嬉しそうに目を輝かせていました。やせい班のオランウータンとの手形くらべでは、その大きさにびっくりしプリントされた手形を大事そうに持ち帰って行きました。一方レストハウス前でのフェイス・ペインティングは大変好評でお客さんが切れることはありませんでした。各班趣向を凝らしたイベントは、多くの来園者の笑顔を誘い来年度開催への元気を頂きました。（やせい班 中島香代子）

### <和歌山県白浜アドベンチャーワールド訪問記>

6月初旬に白浜アドベンチャーワールドに行ってきました。遊園地と動物舎や放飼場、サファリパークが混在したような所で「動物たちは何処に居るのかな？」と一瞬思わせませす。動物たちは幾つかの離れた広場や海獣館、ビッグオーシャンなどと名付けられた大きな建物にいます。パンダランドではジャイアントパンダ5頭が丁度食事中でした。サファリワールドでは、ライオン達10数頭の群、チーター、トラ、ヒグマ等の猛獣を見て回り、次に歩いて草食動物ゾーンに行くと、広々とした草原、岩山、水辺があり、様々な種類のシカ、羊達や水牛、サイと一緒にいます。アフリカゾウやキリンには有料の餌を自由に与えることが出来ます。円山生まれのマサイキリン、『シゲジロウ』も元気でした。今年生まれたホッキョクグマの子供のお食事タイムが海獣館であり、可愛い姿を見ることが出来ました。種類は少ないが、それぞれの種が多頭いるのが羨ましく印象的でした。（クマチカ班 山川泰弘）



### <フンだって役に立つ？>

例年行なわれているフンを利用してのハガキ作り講習会が、今年も7月31日、8月1日、7日の3日間開催されました。当日は他のイベントとも重なり予約も少なかった為、外に出てお客集めから始めました。午前と午後の2回の講習会では、とても喜んでもう一枚作りたいと言う人、お正月の年賀状に考えようと言う人、皆さん自分のアイデアを広げたようです。又草食動物のフンの説明を少々したところ、「反芻動物のフンは適しません。」とのアドバイスも頂きました。ありがとうございます。3日間で114名の参加を頂き、真剣な眼差しで取り組む姿に、私達ボランティアは大いに励まされました。来年も楽しい講習会になりますよう頑張ります。沢山のお手伝いありがとうございます御座いました。（ワイルド班 鈴木一恵）

### <『ナナコ』ちゃん 六歳のお誕生日>

8月27日マサイキリン『ナナコ』ちゃんのお誕生会が開催されました。猛暑にもかかわらず、沢山のアニマルファミリーの方が参加して下さいました。この日のために九州から取り寄せた、『ナナコ』ちゃんのお好物のカシの葉を参加者一人ひとりが手に持ち、プレゼントしました。思いのほか枝を引っ張る力が強く、枝ごと持っていかれそうになりびっくりしました。でも自分が上げたカシの葉を美味しく食べてくれて、大感激でした。普段は札幌産の葉は口にしないとのことなので、久々のふるさとの味に『ナナコ』ちゃんも満足したことでしょう。いつもより近くで見る『ナナコ』ちゃんは本当に美人でとてもキュートな女の子でした。いつの日か可愛い赤ちゃんを私達に是非見せてくださいね。楽しみにしています。（足 早く治るといいね!!）



（ワイルド班 内村まりこ）

## <日本の皆さんさようなら>

僕はコモドオオトカゲの『コナン』。メスの『コニ』と一緒にいるインドネシアから来たんだ。2年間円山動物園で過ごしてきたんだけど、今回、ふるさとのインドネシアに帰ることになったんだ。トカゲの中では最大級で、日本では円山でしか見られないと云うこともあって、沢山の人たちに会いに来てもらえて本当に嬉しいよ。娯楽たちは少々グロテスクだけどなかなか存在感はあると思うよ。日本の皆さん、僕達のことずっと忘れないでね。僕達も日本のこと忘れないよ。さようなら。

(やせい班 成田愛)



## <夜の動物園 Twinkling Night Zoo(星空観望会)>

7月23日と8月7日に開催予定の『Twinkling Night Zoo』は、二日間共雨が降り、初めて行われる予定だった青少年科学館の望遠鏡で星空を見る会は、残念ながら中止になり、センターホールでの星空スライドショーに変更されました。科学館天文係の方々による星の解説です。スクリーンに映し出された星達を線で結んでの星座の見方や、ギリシャ神話等々子供ばかりではなく大人も楽しめる楽しい会でした。特に7日の第3回目に、特別出演のは虫類・両生類担当の本田キーパーさんと、科学館天文係の石垣さんとのコラボレーションがあり、映し出された星座を見ながらのトークショーは、ロマンと夢の世界へ誘い込まれ、うきうきとしたひと時を過ごすことが出来ました。全天88星座中の半分は動物に関する名前が付いているそうです。最後に本田キーパーさんのヘビを使ってのサプライズに子供達も・大人も恐々としていました。

(ワイルド班 田中一江)



## <動物園の森 早朝散歩>

8月5日早朝。子供と大人40人で動物園の森を散歩しました。子供達は動物園主催の『夏休み動物園体験プログラム』に参加した小学生高学年で、前夜はオオカミ舎に泊まり暑くて寝不足気味の子もいましたが、朝7時、4班に分れ森の担当者吉野さんから、森の危険度No.1のスズメバチへの注意を受け、森に連なるゲートから足を踏み入れました。濃い緑とカラ類のさえずりに迎えられ、ひんやりとした空気が別世界のように感じていた子供も「気持ちいい!!!」。進んで行くと色々な虫達に出会います。カタツムリの呼吸する様子、脱皮したばかりの紫色したダンゴムシ、アリジゴク、長方形に畳まれた葉の中で成長するオトシブミ、縄張をパトロール飛行するオニヤンマ、池には大型で水色が美しいオオルリボシヤンマ、水面に落ちたガに静かに近づくアメンボ、シマヘビにも遭遇するなど様々な生き物を探し、出会い、そして触れて、子供達はもちろんですが、大人も驚きと感動の2時間でした。

(やせい班 藤田叶子)



## <帯広のタヌキの仔 元気でした>

平成20年に「どさんこの森」で生まれたエゾタヌキの8匹の仔タヌキの内、2匹が平成21年6月に帯広動物園へと旅立って行きました。そんな仔タヌキに会いたくて、先日帯広動物園に行ってきました。一年ぶりに見た仔タヌキたちは、もうすっかり大人になり仲良く2匹で体を寄せ合って、眠っていました。その姿にかけて親兄弟がダンゴのように一塊になって寝ていた姿を思い出し、胸がジーンと熱くなりました。帯広の子供達にも可愛がられ人気は上々とのことでした。「さよなら、又会いにくるからね。元気でいてね」と寝ているタヌキにそっとお別れを言い、動物園を後にしました。

(ふれあい班 高橋しのぶ)



## <『夜の動物園』『カルチャーナイト』に参加して>

7月24日～8月28日、恒例の『夜の動物園』が開催されました。期間中の土・日は開園時間を21時まで延長し、様々なイベントが企画されました。8月15日は『カルチャーナイト』の日であり、夜の動物達の生態を見ようと沢山の来園者が参加されました。それぞれの担当部署に飼育員さんが立ち説明を行なっておりました。トビの『ビリー』も飼育員さんの腕におとなしく留まって一緒に首を傾け熱心に聞き入って(?)いました。海獣舎ではアザラシについて「体にアザがあるからアザラシ」「哺乳類だからお腹にへソもある」「呼吸は海面から顔を上げてする」等の説明に皆さん楽しそうにうなずいていました。ヒグマの『とわ』の前は黒山の人ばかりで、大胆かつ天衣無縫な動きに魅了されていました。エゾシカの前では「ツノの枝分かれの数で年齢が分かる。4本以上は増えない」との説明に、「知らなかった～」の声が…。暑い一日でしたが沢山の知識を頂き、カルチャーナイトが終わりました。

(ワイルド班 水戸久仁子)

**Q 動物園に入った時期と動機を教えてください。** 昨年の4月からここで働いています。12年前に札幌市職員に採用された時から希望を出していました。前職は用務員でした。動物については特に勉強をしていなかったの、びっくりする事ばかりです。

**Q 今までに強く印象に残っている仕事は何ですか？** 動物の移動が特に印象に残っています。これまでホッキョクグマとコモドオオトカゲの搬出と、オランウータンの『レンボー』の受け入れに立ち会いました。



**Q お客さんにアピールしたい点を教えてください。** 動物のことをもっと積極的にアピールして行きたいのですが、言葉だけでは伝えにくいので、以前活躍していたシロフクロウの『セルゲイ』や『セーベル』、ワシミミズクの『パンジュー』の様に、フリーフライトが出来るフクロウがいると良いのですが。フクロウは卵を産んでも抱かなかったり、無精卵だったりする事が多く、今年も産んだのですが孵化しませんでした。

**Q 仕事で一番難しい点、気を使っている点は何ですか？** 動物の魅力を手で伝えるのは難しいです。又、鳥類は哺乳類より体調の変化を知るのが大変難しく、数日で羽の下がガリガリに痩せていたこともありました。

**Q キッドランドの閉鎖に伴い、今後白鳥池はどうなるのですか？** 白鳥池も9月いっぱい閉鎖になります。ガンやカモたちは一部総合水鳥舎に残るものもいますが、半分は旭山動物園へ行きます。エサやり等のふれあひも出来なくなり、少し寂しい思いです。

**Q 将来の夢を教えてください。** 今の仕事はやりがいがあってとても楽しいです。今の飼育施設がベストの状態になるようにしたいです。鳥舎の地面を砂から土や草に変えていっています。去年植えた草を、さらに来年に向けて良い状態にしたいと思っています。それにはもっともっと勉強しなくてはなりません。草の種の蒔き方や、丈を工夫したりしていますが、思ったようには生育してくれません。緑がもっとあって野生に近い環境にして行くのが今後の課題です。

大変お忙しい中、インタビューへのご協力誠にありがとうございました。 (やせい班 成田愛 加藤啓子)



### <ホッキョクグマへの氷のプレゼント>

8月1日昼過ぎにホッキョクグマへ氷のプレゼントがありました。今回で26回を数えるイベントで、『デナリ』と『ウラ』の年齢をはるかに上回る回数を重ね、お客さんからも大変親しまれている証だと思います。クマ達の各々の屋外展示場には氷柱とホッケとリンゴが準備され、『ピリカ』・『デナリ』・『ウラ』の順で扉が開けられました。河西キーパーさんによる解説があり、ホッキョクグマのグッズのモデルは美人の『ピリカ』であること。『デナリ』は軽い歯槽膿漏を患い硬い食べ物は厳禁とのこと。歯が欠ける恐れがあり凍った魚は与えられません。『ウラ』は現在太り気味でダイエットの為野菜中心の食事のようです。動物達の裏話は聞いていて飽きることなく、又違った一面を垣間見ることが出来、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。今年も『ウラ』と『デナリ』の繁殖行動が確認されたとの報告もあり、12月の二世誕生が今から楽しみです。

イベントの終わりがけに、ビックなプレゼントがありました。それは『ピリカ』が氷柱を持ち上げて立ち上がり、観衆への絶好のシャッターチャンスを生演出してくれたこと。しかし残念ながらカメラを向けていた人はごく僅かで、もう一度と催促されても後の祭りでした。

(クマチカ班 福田努)

### <ありがとう『子供の国キッドランド』>

円山動物園の遊園地『子供の国キッドランド』は、平成7年4月に中島公園より移設されて以来、15年6ヶ月の歴史の幕をこの9月に、多くの子供達や楽しい思い出のある大人達に惜しまれながら閉じました。大型遊具18基、その他3施設を有し、中でも幼児とお年寄りが好んだスカイシップが一番人気の乗り物でした。最盛期には年間110万人の子供達に、夢と楽しさを提供してくれました。札幌は遊園地が少なく、特に幼児用の遊園地は限られており、今でも年間60数万人が訪れる『子供の国キッドランド』は、市民にとって親しみ深い憩いの場でもありました。最後の1ヶ月は500円乗り放題のサービスもあり、毎日子供達の黄色い歓声で賑わいました。ここで遊んだ子供達に沢山の思い出を残してくれたことに感謝し、心より「ありがとう」の言葉をおくりします。



Thank you very much!

(クマチカ班 山川泰弘)

## <サル山 氷のプレゼント>

8月1日朝から小雨がパラつく中、今年で25回を迎える恒例の『サル山氷のプレゼント』が始まりました。早くも子ザル達は一塊115キロもある大きな氷のテーブルを、登ったり滑ったり大騒ぎをしていました。サル山の大将が登場です。3名のキーパーさんがそれぞれに持ったコンテナの中には、普段口にする事の出来ない美味しい果物で一杯です。辺り一面フルーツの香りが漂います。もう我慢が出来ません。一斉に飛び掛ります。以前子ザルが氷の中に埋まっている果物を早く食べたくて、小さく開いた穴の中に手を無理して突っ込み、骨折してしまった事がある為、朝倉キーパーさんは氷に穴あけのプレゼントもしてくれました。



(ワイルド班 田中一江)

## <『いのちの感謝祭』開催される>

『いのちの感謝祭』が動物園センターで開催されました(9月18日~28日迄)。土・日・祭日はトークショーがあり18日は酒井園長と吉田飼育員さんのお話で幕が開きました。スライドとジョークを交えながらの、「レッサーパンダ」「シンリンオオカミ」「オランウータン」の赤ちゃん誕生までの裏話が披露されました。特に「オランウータン」は初産なので大変心配し、イライラ、ドキドキ、ソワソワの毎日だったようです。「人工保育で育った『レンボー』は助産が必要なのか?」「ベッドを何箇所も作るの?」「運動不足でお腹が大きくなり過ぎないか?」「高いところに登れば、落ちないか?」と、心配が沢山あったそうです。『レンボー』のお産は吉田飼育員さんの見た夢が正夢となり、陣痛は時間を計りながら見守ったそうです。『レンボー』は学習もしていないのにビショヌレの赤ちゃんを抱き、綺麗に舐めたそうです。中々オッパイを上げようとしないので、『レンボー』には餌やりで気を引き、その隙に赤ちゃんをオッパイに吸い付けてあげたらどどんお乳を飲み始め、一同ほっとしたそうです。とっても楽しいトークショーを体験できました。

(ワイルド班 藤川徳子)

## <『レディ2010』 春、夏を振り返る>

9月5日アニマルファミリー、『レディ感謝イベント』が開催されました。平成18年生まれの『レディ』は人間で言えば8~9歳になり、皆に暖かく見守られながら一步一步進歩しているようです。祐川飼育員さんから最近の『レディ』の様子が報告されました。「復帰訓練はあとお父さんを残すだけとなった。」「6月のお尻の怪我は大事に至らず良かった」「『アッキー』とも仲良くなったが、男の子なので泣かされることが多い」「『チャー坊』ともお互いに認め合うようになって来た。ここまで3、4年かかった」「『チャコ』という機会が一番多く麻袋の取り合いもしている」「皆と一緒に暮らしていけるようにしたい」。報告の後マチカヘ移動し『レディ』の好きな果物を皆で隠しました。祐川さんと一緒に登場した『レディ』は、好物よりも祐川さんの後を追っていましたが、ファミリーが揃うと楽しそうに探し回り、手に一杯の果物をかかえてほおぼっていました。(『レディ』大人になったね!)

(ワイルド班 水戸久仁子)

## = 投函コーナー =



\* 「よく当る」と評判のは虫類占い、やってみました? \*

(やせい班 浅川良美)

\* いつも寝てばかりいるあの娘(ナマケグマ)が、こんなにカワイイなんて...知ってました? \*

(やせい班 大場めぐみ)

\* 「ねえー、あなたは何度言ったらわかるのー、もー」 \*

(ワイルド班 星原恵子)

\* 今年の夏はあじくて! あじくて! まいった。まいった。 \*

(ワイルド班 星原恵子)

\* ぬいぐるみ? いいえ、『ココ』ちゃんの赤ちゃんですよ。 \*

(ふれあい班 高橋しのぶ)

## 編集後記

猛暑続きの夏が嘘のように思われる秋風は、さわやかと云うよりちょっぴり淋しさも混じっているように感じられます。子供達の思い出を残して『子供の国キッドランド』は姿を消しましたが、跡地には動物たちのアジア・アフリカゾーンがお目見えする予定です。新たな夢を見せてくれることを期待したいと思います。(次回原稿締め切りは12月18日です)

編集スタッフ: 小熊 瞳 松山幸子 高橋しのぶ 大地 淳 田中茂雄 田中一江 星原恵子 水戸久仁子 丹野健治  
 山川泰弘 成田 愛 加藤啓子  
 編集責任者: 鳥山 要 (TEL/FAX 011-621-8022) 佐藤正俊